組織現勢（7月1日現在）
組合員数　20,099人
出資口数　107,456口
5・6月の新規加入　20人
5・6月の増資口数　894口
No. 394　再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
本部事務局　大田区大森東4-6-15-101
TEL（3762）0266
振込銀行　さわやか信用金庫大森支店
口座（普）0469459
発行　「城南の保健」編集委員会
年10回発行・定価1部　30円

2016年度　重点課題

① 地域包括ケア時代に向けて、安心して住み続けられるまちづくりのために「支部の力」を強めます
② 経営的に強い生協にしていきます
③ 班会を中心に、健康づくりの取り組みをすすめます
④ ５年連続仲間増やし目標達成を
⑤ 「誰もが安心して住み続けられるまちづくり」を目指して、今後も多くの団体、個人と力をあわせていきます
⑥ 組合員が楽しみ、イキイキと参加できる企画
⑦ よろず相談やお元気ですか訪問で受診控えや孤立死をなくす取り組み
⑧ 住みやすい大田区・品川区にしていくために運動します
⑨ 引き続き文化活動を紹介していきます

地域の要求に応え、いっしょにすすめよう 誰もが安心して住み続けられるまちづくり

健康づくり・まちづくりをすすめます（6月25日）

第41回通常総代会

城南保健生活協同組合第41回通常総代会が6月25日㈯、大田区嶺町集会室で行われました。お忙しい中お越しいただいた来賓の皆さまに心よりお礼申し上げます。

来賓を代表して五反田法律事務所弁護士・串山泰生さま、大森中診療所所長・山本博さまにご挨拶をいただきました。また当日は、総代の皆さんに熱心な討議をしていただき、2016年度活動方針（案）、予算（案）など8号にもおよぶ議案を賛成多数で採択することができました。そして、2015年度は4年連続で、仲間増やし年間目標700人に対し、712人と超過達成することができました。

また『参議院選挙～「安倍政権NO！　社会保障拡充」の実現を』第41回通常総代会アピールも行い、満場一致で採択されました。

今総代会を大きな力とし、地域における幅広い対話をすすめ、誰もが安心して住み続けられるまちづくり運動を広げていきましょう。

植田栄一 理事長あいさつ

暮らしと地域を守る運動を広げましょう

昨年は終戦70年、被爆70年の区切りの年でした。安倍政権はあろうことか、日本を海外で戦争できる国につくり変える安保関連法（戦争法）を9月19日未明強行採決しました。

私たちはいのちと健康を守る民医連運動、医療生協運動の対極にある戦争につながるいかなる策動にも、断固として反対することを改めて明確にしたいと思います。

さらに、消費税大増税はきっぱり廃止を、熊本地震の復興支援、辺野古への新基地建設反対、原発再稼働反対、医療・介護・年金・生活保護など社会保障切り捨てを許さない…等々、暮らしと地域を壊す大暴走を地域の皆さんとともにストップさせる運動を広げていきます。

さて、2015年度は仲間増やし4年連続の年間目標達成、よろず相談・法律相談の定着により地域の駆け込み寺としての役割がいっそう高まっています。

経営面では薬局・すずらん・グループホームで厳しい職員体制のもと、全職員のがんばりで収入増を達成しましたが、残念ながら赤字決算となりました。

第41回通常総代会アンケート（抜粋）

- 大勢の方が参加し、すばらしい会だと思います。
- 明るい印象を受けました。
- ますます大切な役割があると思います。
- 活動の多様さに驚きました。
- 地域の方や高齢者が参加しやすい活動も多く、総代会への参加者も多いことを喜ばしく感じます。
- 活動の報告はどれも関心するものばかりです。
- 大田病院でのボランティア活動について楽しく聞き、「やってみたい」と思いました。
- 次回も参加したいと思いました。
- 普段、業務上で関わりの少ない職場が多様な活動を行っているのがわかった。
- イキイキと報告発表されている姿を見ると、すがすがしい気持ちにさせられます。
- 赤字を克服するための発言が出たことは大切なことだと思います。真摯にすすめていきましょう。

＊これからも、地域の皆さまと力を合わせて、さまざまな運動を前進させていきます。ご協力ありがとうございました。

第39期　役員体制

理事長／植田栄一
専務理事／横山直城
常務理事／安斎晴夫・色部祐・二村国太郎・前沢淑子・村松茂
理事／浅見美代子・阿部直美・石川八郎・江口雅人・江部謙五・大森由美子・奥嶋猛・大澤千恵子・笠原恭子・川居直美・神田瑞穂・橘内信一・工藤人喜江・小林千夏・齋藤礼子・酒井一雄・志田恵子・下條都賀子・下山珪子・高橋貴美子・田中博子・塚平憲和・戸張洋子・二木和雄・野口修二・波多野重紀・保坂泰樹・星野弘子・馬島知子・森光男・安田久美子・吉川まゆみ
監事／植木常夫・須山恵子・森崎良光

本総代会で役員の選出について採択されました。新体制の下、「健康で安心して住み続けられるまちづくり運動」をすすめていきます。

退任された役員の皆さま、本当にお疲れさまでした。そしてこれからもよろしくお願いします。

退任理事・幹事

（8人・敬称略・50音順）
小林秀男・笹尾邦昭・佐藤利枝・忠鉢文子・松川久男・綿貫有三子・荒川侃・片岡君子

2016年度は薬価改定があり、大幅な引き下げが行われました。昨年の介護報酬引き下げとともに、私たちの事業運営も大きな打撃を受けますが、城南3法人の連携強化、各種加算の確保やその他、さまざまな工夫をしながら乗り切っていこうと意思統一しています。

最後に、この総代会が明日からの活動へのエネルギーになり実り多い総代会になるよう、活発な討論で盛り上げていただくことをお願いいたします。

腹八分

名人、達人。そして詩人、俳人。これらは世間がその人に贈る尊称です。例えば俳人の場合、自らを俳人とは言わず「俳句を詠んでいます」と答えるのが普通です。自らを何かにたとえた場合は、怪しげなものが少なくない。かつて自分を「福祉の達人」と名乗ったけれど、世間から「福祉を断つ人」と切り返しにあった団体もある▼いま自らの政策を世間に「アベノミクス」と称して盛んに売り込んでいる人物がいる。彼の思いつきでは、大企業、富裕層がさらに富を蓄積すれば、やがてそれがしたたり落ちて世間が潤うという寸法である。実際に大企業、富裕層は、彼の手厚い保護によっていっそう富を肥やした。しかし、富裕層はやみくもに富を蓄えるばかりで、いっこうに下に落とそうとしない。その結果は、格差と貧困の果てしない再生産という最悪の事態を招いてしまったのだ。そして、貧困に苦しむ子どもたちが急増している。若者はブラック企業に吸収され、奨学金の返済もままならない。子どもを保育園に入れられず、とくにシングルマザーに貧困が拡がっている。高齢者だって年金を削られ、医療費の値上げで、音を上げているのだ▼要するにアベノミクスは格差社会を拡大し、ムダな公共事業と軍事を生み出すのが本当のねらいなのだ。それなのに「道なかば」と言って過ごそうとしている。しかし国民は黙ってばかりではない。「道なかば　下から読めば　ばかな道」こんな川柳が痛烈にやり返した。国民を侮ってはいけない。